きらりん通信

倉敷市立倉敷支援学校
令和６年３月４日　　第４号

1年を振り返って

今年度は新型コロナウイルス感染症の制限を受けることなく、学校生活を送ることができた1年でした。全ての場においてというわけにはいきませんが、今まで我慢してつけてきたマスクをはずして互いの顔を見ながら笑い合っている場面や、語り合いながら食事を摂っている姿に「あたりまえ」の幸せをかみしめました。

運動会は、校舎の大規模改修工事の影響もあって7年ぶりに全校が運動場に集っての開催となりました。学部に関係なく、互いの頑張りに自然と湧き上がる応援の声や拍手。学校をあげての久しぶりの行事ということもあり、先生方は細心の注意を払って準備をしました。たくさんの保護者の方の前で、練習以上に張り切って演技をする子どもたちの様子に観客の誰もが感動を覚えました。当日までの苦労も相当でしたが、やりきったという達成感はその後の学校生活に活気を与えました。

3年ぶりに復活した調理実習。ボウルを自分で持って混ぜたり、スープに入れる野菜を型抜きしたりと、みんなで食事を作る楽しみが戻ってきました。笑顔と共にある活動は、子どもたちをいつも以上に輝かせることを実感しました。

各学部が縦割りで行った「ふれあいタイム」。高等部に招かれて、手作りゲームを楽しむ小学部の子どもたち。あちらこちらから聞こえてくる下学年への優しい言葉がけに、高等部の生徒の成長と学部間交流の温かさを感じました。参観日には、全校保護者に向けて、高等部のフードデザイン班による喫茶「キラリンカフェ」が当日限定で開店しました。「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」と、自信をもって接客する高等部生徒の姿に、将来のわが子の姿を重ねたお客様も多かったのではないでしょうか。

地域においては、「粒江ふれあいフェア」に参加することができました。中学部高等部の生徒が気持ちを込めて作った製品を販売したり、PTA の方がバザーを出してくださったりしました。地域の方にも好評で、これを機に、倉敷支援学校に対する関心がより高まり、今後も変わらず温かいご支援をいただけるものと確信いたしました。

もうすぐ、令和5年度が終わりを迎えます。子どもたちを常に中心に据え、できることを一つでも増やしていこうと日々奮闘している先生方。その思いを一身に受け、確実に成長を遂げている子どもたち。担任の先生方からの「あの子はこんなこともできるようになったんですよ」「お母さんからこんな嬉しいメッセージをもらったんですよ」などの報告からは、「共に成長した1年」であったことを感じました。

いよいよ3月6日（水）は高等部32名の卒業証書授与式です。先生方の手を離れ、社会へ。「幸せになるんだよ」思わず母親心が出てしまいます。続いて3月15日（金）は、小学部16名、中学部15名の晴れの舞台です。本年度の卒業証書授与式には、高等部在校生、小中学部の来年度卒業学年が参加する予定です。子どもたちは卒業証書を受け取り、新たなステージへと向かいます。

（校長　山田　由美）

各部の卒業生を送る会の様子

小学部

中学部

高等部